

事例検討の進め方—臨床倫理検討シートを使って

事例検討に臨む姿勢

- ？ 状況から自らを引き離して、第三者的に評価する
 - 倫理原則を事例に適用する
 - 原則は結果としての行為をコントロールするもの
- 状況に身をおき、倫理的姿勢をとる主体として考える
 - 倫理原則を自らが体現する
 - 原則は結果としての行為をコントロールするというより、むしろ自らをコントロールする倫理的姿勢の表現
 - 状況をどう把握するかを検討が核となる／
 - いかにケアをしていくかを、ケアする姿勢で検討すれば、それは同時に倫理的検討でもある

検討シート3種の役割

- **事例提示シート**：ナラティブを共有することを目指す検討
 - 事例を理解する：報告者のナラティブを理解しようとする
 - 何が問題か、事例の経過のどこがポイントかを理解する
- **カンファレンス用ワークシート**：順序よく、検討すべきことに真っすぐに向かう
論点の検討は、自分がその場にいたら、どう考え、どう対応するだろうと想いつつ
- **益と害のアセスメントシート**：最善を見出す検討（相応性論による）
 - 一つの選択肢の益と害を挙げただけでは、それが最適かどうか、分らない
 - 候補となる選択肢をすべて挙げて、益と害を比較、一番よいもの（ましなもの）を選ぶ
 - 治療・ケアのターゲットが決まっている時は、それを達成する見込みがある選択肢の中で、害が最小のものを選ぶ

検討シートは多職種の共同検討を支えるツール

〔臨床倫理検討シート〕 事例提示シート

* 検討内容：前向きを検討・振り返る検討：既に起こった

使用法

記録者 [] 日付 [年 月 日]

検討の種類によって、どちらかを○で囲む
前向き：「これからどうする？」を含む場合
振り返る：過ぎたことを省み、今後に備える

〔1〕 本人プロフィール

・本人の年齢・性別・家族構成・職業等について、簡潔に記す。既往症等は、ここに記すか、経過の冒頭に記すか、記録者の裁量による。開かれた場で検討する場合には、本人が特定されないように配慮し、「A さん、男性、70 代後半」などと匿名性を高めるよう努める（次の経過も同様）。

〔2〕 経過

- ・時間の流れに沿って、医学的なことも、コミュニケーションの流れも併せ記す。
- ・記されたことは事例報告者による《ナラティブ》である。報告者が一緒に検討をする参加者に知っておいて欲しいことが、取捨選択されて記されている。
- ・経過の理解は、検討のための基礎になる。参加者は事例全体の流れをつかみ、報告者が検討したいと思っている点を理解するとともに、自分なりに事例について考えはじめる。
- ・臨床現場で担当チーム内で検討する場合は、個人情報盛り込まれた記述となるため、情報が漏れないように配慮が必要である。また、報告担当者の報告に続いて、参加者が本人・家族と対応する中で得た情報を追加することにより、チーム全体が共有するナラティブとなることを目指す。より広い範囲の参加者による検討の場合は、年月日、登場人物の氏名等、個人が特定されないように配慮した表現をする。
- ・経過を記した後、これを見直して、検討したい分岐点を見出し、そこに〈1〉〈2〉・・・と記す。
- ・「分岐点」とは「別れ道」であり、これからどう進むか、複数の選択肢があり、考えて選ばなければならない状況・時点を指す。また、すでに選んで進んだが、その選択について振り返って検討したいという過去の分岐点があることもある。

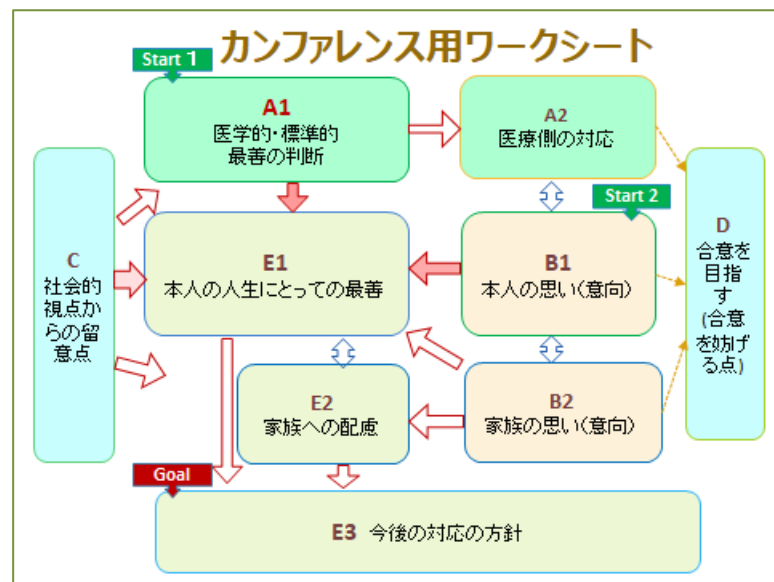
〔本人の人生に関する情報〕

・事例の経過に入れるエピソードではないが、本人の人生、生き方や価値観について（場合によれば、家族についても）聞き取ったことをメモ。本人の最善を考える上で参考になるかもしれない。

〔3〕 分岐点

- ・〔2〕経過に記した分岐点〈1〉、〈2〉等について、それぞれどういう内容の分岐点かを簡潔に記す。
- ・事例検討の大半は、「これからどうするか」、「あの時、あれでよかったか」という問いが検討のテーマになる。したがって、ここには事例を選んだ者・グループの問題意識が簡潔に提示されることになる。

カンファレンス用ワークシートを使った共同検討



カンファレンスにおける検討の進め方

☆ 次の順序で、各項目について、確認できること、検討が必要なことを挙げ、検討が必要な点について検討する。

- ① A1 – A2 ; B1 – B2（どこかで必要に応じて C, D）
- ② A 系列、B 系列の検討を踏まえて E1 – E2 の検討に進む
- ③ 最後に E3 の検討：これからどのように対応していくかについてまとめる

☆ 各項目の検討にあたって事例提示シートをよく読み、当該項目に該当する点、検討する点を見出す。必要に応じて、サポートツール「益と害のアセスメント」を活用する。

☆ 発表時には、

- ・主に話し合った諸項目について、上の①～③の流れに沿って、
- ・話し合った内容や項目間の関係（あれば）を提示する

☆ 時間がある場合は、検討全体を振り返って、倫理的意義を確認する

- ・倫理原則を自らの姿勢として、状況把握の検討をした／検討点をジレンマとして捉え、それを克服する工夫をした等

使用法

〔臨床倫理検討シート 益と害のアセスメントシート（A1&E1 用）〕

選 択 肢	この選択肢を選ぶ理由／ 見込まれる益	この選択肢を避ける理由／ 益のなさ・害・リスク
<p>・どのような選択肢かを簡潔に記す。</p> <p>←左欄には選択肢の番号を記入。</p>	<p>・この選択肢を選ぶことに傾ける理由を記す。</p> <p>・この選択肢がもたらすと見込まれる益など。</p> <p>・誰にとっての益かを明確にする記入を心掛ける（下方欄外の注記を参照）。</p>	<p>・この選択肢を選ばないように傾ける理由を記す。この選択肢がもたらす害やリスク（有害性）、選んでも益が見込まれない（無益性）など。</p> <p>・益と同様、誰にとっての害等かを明確に。</p>

- ① A1 の検討の中で、医学的・標準的 最善の判断のために選択肢の比較をすることになった場合には、当該事例の本人の身体状況（病状等）の場合に一般的に見込まれることを中心にメリット・デメリットを記す。
- ② E1 の検討において本ツールを使うことになった場合には、この段階までに挙げられた選択肢を比較する。この場合、メリット・デメリットは、医学的・客観的見地からのものか、本人にとってのものか、または家族他にとっての都合・好みかを区別し、各メリットないしデメリットの冒頭に〔家○〕〔医×〕等と記す。
- ③ ①のアセスメントをしたが、B 系列等の検討の経て E1 において更なるアセスメントをすることになった場合には、本人や家族の状況や意向等に由来する新たな選択肢があれば追加し、挙がっている各選択肢に追加するメリット・デメリットを、②と同様に、どの見地からの、または誰にとっての益・害かを区別しながら記す。

【臨床倫理検討シート】 カンファレンス用ワークシート

【検討のポイント】

・検討シート〔事例提示〕の、〔3〕分岐点を基本にして、何を目標として検討するかを簡潔に記す。途中で変更可。

〔C〕社会的視点から

・次のような場合、要点を記し、必要に応じて検討した上で、A,B,D,Eの検討に際して考慮する。

・検討している選択が、社会的公平・公正、第三者の利害、利益相反、社会資源の配分・活用に関係する
・法、ガイドライン、社会通念等に関係する

〔E3〕見出しについて
前向き検討の見出し（今後の・・・）と振り返り検討の見出し（振り返り・・・）が併記されている。⇒目下の検討の内奥に応じて、該当する方残し、他方を消す。

〔A1〕医学的・標準的最善の判断〔必須項目〕

・検討テーマに関連した医学的情報をまとめる。
・事例の経過で主治医等がどう判断していたかを書いた上で、それが適切かどうかを検討する、という場合もある。
・標準的最善の判断：現在、医学の側で本事例のような病状について一般的に最善とされている選択肢を示す。
・支援ツール「益と害のアセスメント」を適宜使用する。

〔A2〕医療側の対応

・A1に連動して、本人・家族側にどう働きかけたか、要点を記す。
・医療側⇒本人・家族の対応で検討すべきことがあれば記し、検討を加える。

【作成者・作成日】

グループ・ワークの際は、ここに大きくグループ名を記入する。

〔E1〕本人の人生にとっての最善〔必須項目〕

・A1とB1、必要に応じて更にB2を併せ、本人の人生にとって、何を目標とすること、どのような選択をすることが最善かを総合的に検討する。
・〔生命についての医学的判断⇒人生の最善についての判断〕&〔情報共有 - 合意モデル〕に則った検討
・

〔B1〕本人の思い（意向）〔必須項目〕

・事例の経過に現れた、本人の理解・意向や表明された/隠れた気持ちをまとめて記し（気になった点など中心に）、そこから本人の思いの理解を深めようと努める。
・本人の人生にとっての最善を考える際に、本人の人生や価値観について理解することは基礎になる。それらを本人が表明している希望や好み、エピソードなどから探る。

〔D〕合意を妨げる点

・医療側、本人、家族および意思決定に参与するその他関係者の間で、合意を目指す際にネックとなっていること（合意を妨げる点）があれば、記す。
・合意を妨げる点をジレンマとして整理する場合に、この欄を使うことができる。

〔E2〕家族への配慮

・E1とB2から、本人の人生にとっての最善を実現すると共に、家族の人生にとってもマイナスにならない配慮を検討する。
・例えば、家族の過重な負担を避ける手立て、また家族の悲嘆・不安等へのケアなど。

〔B2〕家族の思い（意向）

・本人についてB1で記したこと、検討したことと同様のことを、家族について記し、検討する。
・特に家族が医療側から見て、ひっかかるような言動をしている場合、思いについての理解を試みることは、検討全体の中で要となる場合がしばしばある。

〔E3〕今後の対応の方針・振り返りからの学び〔必須項目〕

・E1&E2の検討を踏まえて、これからどのように本人・家族その他関係者と対応していくかを枚挙し、配慮すべき点があれば併せ記す。
・E1、E2に記入したことの一部分をピックアップして、簡潔

に書きにすることになる場合もある。できるだけ、「何をするか」をより簡潔、かつ具体的に書く。

・「振り返り検討」の場合、右手欄外の注記を参照。

〔E3〕振り返り検討の場合、次の諸点を検討する。
①経過全体を振り返って、良かった点、別の対応もあり得た点
②今後同様の事例に対する際に、どのような点に留意するかを検討する

- ・ 臨床倫理検討シート最新版は次のウェブページからダウンロードできます：

<http://clinicalethics.ne.jp/cleth-prj/worksheet/>

- ・ 臨床倫理検討シートを使った事例検討について、より詳しくは次の書籍をご覧ください。

清水哲郎・会田薫子・田代志門編著

[『臨床倫理の考え方と実践：医療・ケアチームのための事例検討法』](#)

東京大学出版会, 2022

- ・ ウェブサイト「[臨床倫理ネットワーク日本](#)」には、上記検討シートの他にも、臨床倫理事例検討に役立つコンテンツが多くあります。

発行 臨床倫理プロジェクト

事務局 岩手保健医療大学 臨床倫理研究センター

問い合わせ：clinical.ethics.jp★gmail.com

（メールを出す際には上の★を半角の@に換えてお使いください）